

(様式第 10)

国際研セン発 271002003 号
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 理事長 春日 雅人 (印)

国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
氏 名	春日 雅人

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院

3 所在の場所

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1	電話(03)3202-7181
-----------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1呼吸器内科、2循環器内科、3糖尿病内科、4消化器内科、5血液内科、6内分泌代謝内科、 7腎臓内科、8神経内科、9心療内科、10感染症内科、11新生児内科、12内視鏡内科、 13人工透析内科、14緩和ケア内科、15ペインクリニック内科、	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1外科、2呼吸器外科、3心臓血管外科、4消化器外科、5小児外科、6形成外科、7頭頸部外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	12放射線科	⑬放射線診断科	
⑭放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1アレルギー科、2リウマチ科、3リハビリテーション科、4病理診断科、

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
38床	4床	40床	床	699床	781床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	176人	246.0人	353.1人	看 護 補 助 者	40.5人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	2人	12.0人	11.6人	理 学 療 法 士	12.0人	臨 床 検 査 技 師	47.6人
薬 剤 師	38人	8.0人	44.2人	作 業 療 法 士	5.5人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	4.4人	そ の 他	0人
助 産 師	人	人	人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	784人	18.0人	796.5人	臨 床 工 学 技 士	8.8人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	7.0人
准 看 護 師	0人	1.0人	0.8人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	16.3人
歯 科 衛 生 士	1人	1.0人	1.8人	歯 科 技 工 士	1.0人	事 務 職 員	128.2人
管 理 栄 養 士	6人	4.0人	9.2人	診 療 放 射 線 技 師	43.0人	そ の 他 の 職 員	46.4人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	30人	眼 科 専 門 医	6人
外 科 専 門 医	20人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	5人
精 神 科 専 門 医	3人	放 射 線 科 専 門 医	12人
小 児 科 専 門 医	12人	脳 神 経 外 科 専 門 医	4人
皮 膚 科 専 門 医	3人	整 形 外 科 専 門 医	4人
泌 尿 器 科 専 門 医	5人	麻 酔 科 専 門 医	4人
産 婦 人 科 専 門 医	9人	救 急 科 専 門 医	7人
		合 計	124人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	672.2人	2.5人	674.7人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	1692.0人	82.2人	1774.2人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数			1399剤
必要医師数			168.63人
必要歯科医師数			1.31人
必要薬剤師数			22.49人
必要(准)看護師数			396.49人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	206.34m ²	SRC造	病床数	10床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	284.00 m ² 台	病床数	30床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	127.45m ²			
化学検査室	368.83m ²		生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	131.96m ²		血液培養自動分析装置、同定薬剤感受性パネル自動測定装置			
病理検査室	250.41m ²		クリオスタット、全自動染色システム、自動封入装置			
病理解剖室	295.86m ²		感染症対策解剖台、遺体貯蔵庫、フロアスケール			
研究室	134.67m ²		(主な設備) データ解析用PC			
講義室	304.26m ²		室数	1 室	収容定員	400 人
図書室	277.06m ²		室数	2 室	蔵書数	34,616 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	94.0%	逆紹介率	63.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数	11,306人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,330人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	8,592人	
	D: 初診の患者の数	21,166人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	11人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	7人	・広範脊柱管狭窄症	13人
・重症筋無力症	16人	・原発性胆汁性肝硬変	13人
・全身性エリテマトーデス	5人	・重症急性膵炎	9人
・スモン	15人	・特発性大腿骨頭壊死症	10人
・再生不良性貧血	13人	・混合性結合組織病	14人
・サルコイドーシス	14人	・原発性免疫不全症候群	10人
・筋萎縮性側索硬化症	13人	・特発性間質性肺炎	12人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	8人	・網膜色素変性症	16人
・特発性血小板減少性紫斑病	12人	・プリオン病	14人
・結節性動脈周囲炎	15人	・肺動脈性肺高血圧症	10人
・潰瘍性大腸炎	11人	・神経線維腫症	15人
・大動脈炎症候群	9人	・亜急性硬化性全脳炎	7人
・ビュルガー病	15人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	12人
・天疱瘡	12人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	14人
・脊髄小脳変性症	14人	・ライソゾーム病	15人
・クローン病	16人	・副腎白質ジストロフィー	12人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	13人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	17人
・悪性関節リウマチ	6人	・脊髄性筋委縮症	12人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	12人	・球脊髄性筋委縮症	14人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	14人
・アミロイドーシス	11人	・肥大型心筋症	8人
・後縦靭帯骨化症	15人	・拘束型心筋症	14人
・ハンチントン病	11人	・ミトコンドリア病	6人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	12人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	13人
・ウェゲナー肉芽腫症	13人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	11人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	8人	・黄色靭帯骨化症	13人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	18人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	12人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	21人		

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料(一般7:1、結核10:1、精神10:1)	患者サポート体制充実加算
救命救急入院料1 小児加算	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
特定集中治療室管理料1	ハイリスク妊娠管理加算
ハイケアユニット入院医療管理料1	ハイリスク分娩管理加算
脳卒中ケアユニット入院医療管理料	退院調整加算
新生児特定集中治療室管理料1	データ提出加算
新生児治療回復室入院医療管理料	新生児特定集中治療室退院調整加算
小児入院医療管理料2	救急搬送患者地域連携紹介加算
一類感染症患者入院医療管理料	救急搬送患者地域連携受入加算
臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	呼吸ケアチーム加算
救急医療管理加算	後発医薬品使用体制加算2
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算
妊産婦緊急搬送入院加算	
診療録管理体制加算1	
急性期看護補助体制加算	
看護職員夜間配置加算	
地域加算(施設基準ではない)	
療養環境加算	
重症者等療養環境特別加算	
無菌治療室管理加算1、2	
緩和ケア診療加算	
精神科身体合併症管理加算	
栄養管理実施加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	遠隔画像診断
高度難聴指導管理料	ポジトロン断層撮影
糖尿病合併症管理料	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
がん性疼痛緩和指導管理料	CT撮影及びMRI撮影
がん患者指導管理料1、2、3	冠動脈CT撮影加算
外来緩和ケア管理料	外傷全身CT加算
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	心臓MRI撮影加算
糖尿病透析予防指導管理料	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
地域連携小児夜間・休日診療料 2	外来化学療法加算1
夜間休日救急搬送医学管理料	無菌製剤処理料
外来リハビリテーション診療料	心大血管疾患リハビリテーション料(I)
ニコチン依存症管理料	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
地域連携診療計画管理料	運動器リハビリテーション料(I)
がん治療連携計画策定料	呼吸器リハビリテーション料(I)
がん治療連携指導料	集団コミュニケーション療法料
肝炎インターフェロン治療計画料	がん患者リハビリテーション料
薬剤管理指導料	医療保護入院等診療料
医薬品安全性情報等管理体制加算	一酸化窒素吸入療法
医療機器安全管理料1	処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
医療機器安全管理料2	組織拡張器による再建手術(一連につき)
在宅血液透析指導管理料	(乳房(再建手術)の場合に限る。)
持続血糖測定器加算	乳腺悪性腫瘍手術
麻酔管理料(I)	(乳がんセンチネルリンパ節加算算定の場合)
麻酔管理料(II)	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
放射線治療専任加算	経皮的冠動脈形成術
外来放射線照射診療料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
外来放射線治療加算	経皮的冠動脈ステント留置術
体外照射	経皮的中隔心筋焼灼術
高エネルギー放射線治療	ペースメーカー移植術/交換術(電池交換含む)
強度変調放射線治療(IMRT)	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出
呼吸性移動対策加算	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
画像誘導放射線治療加算	経皮的動脈遮断術
直線加速器による放射線治療	ダメージコントロール手術
定位放射線治療の場合	腹腔鏡下肝切除術
呼吸性移動対策加算(その他)	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
入院時食事療養費(I)	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表
食堂加算	第2章第9部の通則4含む。)に掲げる手術
血液細胞核酸増幅同定検査	人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	腹腔鏡下肝切除術
検体検査管理加算(I)	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
検体検査管理加算(IV)	生体部分肝移植術
埋込型心電図検査	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
時間内歩行試験	手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
ヘッドアップティルト試験	輸血管理料 I
人工膵臓	輸血適正使用加算
皮下連続式グルコース測定	歯科治療総合医療管理料
神経学的検査	医療機器安全管理料(歯科)
ロービジョン検査判断料	歯科技工加算
小児食物アレルギー負荷検査	地域歯科診療支援病院歯科初診料
内服・点滴誘発試験	歯科外来診療環境体制加算
センチネルリンパ節生検(乳がんに限る)	歯周組織再生誘導手術(GTR)
経気管肺生検法	クラウンブリッジ維持管理料
CT透視下気管支鏡検査加算	CAD/CAM冠
造血器腫瘍遺伝子検査	(歯科)上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨
病理診断管理加算2	形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
口腔病理診断管理加算2	
画像診断管理加算1	
画像診断管理加算2	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト(ベトナムにおける国立国際医療研究センター感染症研究プロジェクト)	岡 慎一	ACC	137,950,000	補委 科学技術振興機構
環境因子の変化に伴う疾病構造変化モニタリングと中長期環境モニタリングおよび暴露調査結果を用いた環境がヒトへ与える影響の解析	星野 隆之	病院	19,249,999	補委 厚生労働省
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究に関連する研究開発管理の実施・評価に関する研究	春日 雅人	病院	7,001,000	補委 厚生労働省
腎臓機能障害者の高齢化に伴う支援のあり方に関する研究	日ノ下 文彦	病院	2,100,000	補委 厚生労働省
サトマイド胎芽病患者の健康、生活実態の生活実態の諸問題に関する研究	日ノ下 文彦	病院	13,220,000	補委 厚生労働省
適切な抗HIV療法開発のための研究	瀧永 博之	ACC	6,168,000	補委 厚生労働省
HIV母子感染児における神経学的予後についての研究	田中 瑞恵	病院	1,859,000	補委 厚生労働省
NIC及びUGCU入院新生児の乳児虐待発生予防を目指した多種専門職参加型の診療体制を構築するための研究	山田 律子	病院	1,758,000	補委 厚生労働省
患者データベースに基づく糖尿病の新規合併症マーカーの探索と均てん化に関する研究—合併症予防と受診中断抑制の観点から—	野田 光彦	病院	20,000,000	補委 厚生労働省
HIV感染症とその合併症に対する新規治療法の開発に関する研究	岡 慎一	ACC	20,748,000	補委 厚生労働省
一類感染症の患者発生時に備えた治療・診断・感染管理等に関する研究	加藤 康幸	DCC	4,500,000	補委 厚生労働省
胃静脈瘤に対するモノエタノールミノレイン酸塩を使用したバルーン閉塞下逆行性静脈閉塞に関する医師主導治験の調整・管理に関する研究	田嶋 強	病院	60,356,000	補委 厚生労働省
治験の実施に関する研究[モノエタノールミノレイン酸塩]	田嶋 強	病院	514,000	補委 厚生労働省
非AIDS関連悪性腫瘍増加時代における消化管腫瘍の研究	永田 尚義	病院	3,334,000	補委 厚生労働省
急性呼吸窮迫症候群の新しいバイオマーカー血中硫化水素イオンと重症化の関連性	岡本 竜哉	病院	1,430,000	補委 日本学術振興会
南アジアと日本における若年冠動脈疾患患者の新しい危険因子の同定とその予防法の開発	諸井 雅男	病院	2,080,000	補委 日本学術振興会
体幹部血管性病変の低侵襲4次元非造影MR血管撮影法の確立	田嶋 強	病院	2,210,000	補委 日本学術振興会
エストロゲン標的臓器におけるLKB1-AMPKの機能解析	大石 元	病院	2,080,000	補委 日本学術振興会
多発性骨髄腫:Non-FDGPETの新しい可能性の臨床研究	窪田 和雄	病院	1,820,000	補委 日本学術振興会
脂肪酸代謝画像による非アルコール性脂肪性肝炎の新規低侵襲的診断法の開発	野崎 雄一	病院	1,560,000	補委 日本学術振興会
フソバクテリウム・ネクロフォーラム咽頭炎の微生物学的及び臨床疫学的検討	早川 佳代子	DCC	1,950,000	補委 日本学術振興会
急性心筋梗塞後:PETによる修復過程のモニタリング	諸岡 都	病院	1,300,000	補委 日本学術振興会

計22

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Akiyama, Junichi	消化器内科	Strategy for prevention of cancers of the esophagus	12TH OESO WORLD CONFERENCE: CANCERS OF THE ESOPHAGUS
2	Akiyama, Junichi	消化器内科	Benign and precursor lesions in the esophagus	12TH OESO WORLD CONFERENCE: CANCERS OF THE ESOPHAGUS
3	Akiyama, Junichi	消化器内科	Endoscopy for diagnosis and treatment in esophageal cancers: high-technology assessment	12TH OESO WORLD CONFERENCE: CANCERS OF THE ESOPHAGUS
4	Aoki, Tomonori	消化器内科	Recurrence and Mortality Among Patients Hospitalized for Acute Lower Gastrointestinal Bleeding	CLINICAL GASTROENTEROLOGY AND HEPATOLOGY
5	Fukuda, Shoji	心臓外科	Relationship between Arteriosclerosis Obliterans and the Ratio of Serum Eicosapentaenoic Acid to Arachidonic Acid	ANNALS OF THORACIC AND CARDIOVASCULAR SURGERY
6	Gatanaga, Hirovuki	ACC	Clinical Importance of Hyper-Beta-2Microglobulinuria in Patients With HIV-1 Infection on Tenofovir-Containing Antiretroviral Therapy	JAIDS-JOURNAL OF ACQUIRED IMMUNE DEFICIENCY SYNDROMES
7	Hayakawa, Kavoko	国際感染症センター	Urethritis Caused by Novel Neisseria meningitidis Serogroup W in Man Who Has Sex with Men, Japan	EMERGING INFECTIOUS DISEASES
8	Hayakawa, Kavoko	国際感染症センター	Impact of Different Antimicrobial Therapies on Clinical and Fiscal Outcomes of Patients with Bacteremia Due to Vancomycin-Resistant Enterococci	ANTIMICROBIAL AGENTS AND CHEMOTHERAPY
9	Hayakawa, Kavoko	国際感染症センター	Molecular and Epidemiological Characterization of IMP-1-type Metallo-beta-Lactamase-Producing Enterobacter cloacae in a Large Tertiary Care Hospital in Japan	ANTIMICROBIAL AGENTS AND CHEMOTHERAPY
10	Hojo, Masayuki	呼吸器内科	A Comparison of Long-Term Anti-Inflammatory Effect of Two ICS/LABA Combination Inhalers; Fix-Dosed Maintenance Therapy with Budesonide/Formoterol and Salmeterol/Fluticasone	ALLERGOLOGY INTERNATIONAL
11	Ihana, Noriko	糖尿病内分泌代謝科	Improvement of both fasting and postprandial glycemic control by the two-step addition of miglitol and mitigliinide to basal insulin therapy: a pilot study	DIABETOLOGY & METABOLIC SYNDROME
12	Iikura, Motoyasu	呼吸器内科	Glucocorticoids and Mepolizumab in Eosinophilic Asthma	NEW ENGLAND JOURNAL OF MEDICINE
13	Ikeda, Nobutaka	循環器内科	Ankle-Brachial Index and Its Link to Automated Carotid Ultrasound Measurement of Intima-Media Thickness Variability in 500 Japanese Coronary Artery Disease Patients	CURRENT ATHEROSCLEROSIS REPORTS
14	Ikeda, Nobutaka	循環器内科	1,5-Anhydro-D-glucitol predicts coronary artery disease prevalence and complexity	JOURNAL OF CARDIOLOGY
15	Imai, Koubun	精神科診療科	Psychological and mental health problems in patients with thalidomide embryopathy in Japan	PSYCHIATRY AND CLINICAL NEUROSCIENCES
16	Inoue, Kaori	糖尿病内分泌代謝科	A newer conversion equation for the correlation between HbA1c and glycated albumin	ENDOCRINE JOURNAL
17	Izumi, Shinyu	呼吸器内科	Treatments for Idiopathic Pulmonary Fibrosis	NEW ENGLAND JOURNAL OF MEDICINE
18	Kinai, Ei	ACC	Long-Term Use of Protease Inhibitors Is Associated with Bone Mineral Density Loss	AIDS RESEARCH AND HUMAN RETROVIRUSES
19	Kishimoto, Mivako	糖尿病内分泌代謝科	Additive Effects of Miglitol and Anagliptin on Insulin-Treated Type 2 Diabetes Mellitus: A Case Study	CLINICAL DRUG INVESTIGATION
20	Kishimoto, Mivako	糖尿病内分泌代謝科	The factors that limit activities of certified diabetes educators in Japan: a questionnaire survey	SPRINGERPLUS
21	Kubota, Kazuo	放射線核医学科	Lesion-based analysis of F-18-FDG uptake and In-111-Pentetreotide uptake by neuroendocrine tumors	ANNALS OF NUCLEAR MEDICINE
22	Kutsuna, Satoshi	国際感染症センター	Two cases of Zika fever imported from French Polynesia to Japan, December 2013 to January 2014	EUROSURVEILLANCE
23	Kutsuna, Satoshi	国際感染症センター	The Usefulness of Serum C-Reactive Protein and Total Bilirubin Levels for Distinguishing Between Dengue Fever and Malaria in Returned Travelers	AMERICAN JOURNAL OF TROPICAL MEDICINE AND HYGIENE
24	Kutsuna, Satoshi	国際感染症センター	Comparison of clinical characteristics and laboratory findings of malaria, dengue, and enteric fever in returning travelers: 8-year experience at a referral center in Tokyo, Japan	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY
25	Kutsuna, Satoshi	国際感染症センター	Travel-related leptospirosis in Japan: A report on a series of five imported cases diagnosed at the National Center for Global Health and Medicine	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY
26	Kutsuna, Satoshi	国際感染症センター	Autochthonous Dengue Fever, Tokyo, Japan, 2014	EMERGING INFECTIOUS DISEASES
27	Kutsuna, Satoshi	国際感染症センター	Two Cases of Granulomatous Mastitis Caused by Corynebacterium kroppenstedtii Infection in Nulliparous Young Women with Hyperprolactinemia	INTERNAL MEDICINE
28	Minamimoto, Ryogo	放射線核医学科	Detection of colorectal cancer and adenomas by FDG-PET cancer screening program: results based on a nationwide Japanese survey	ANNALS OF NUCLEAR MEDICINE
29	Minamimoto, Ryogo	放射線核医学科	Detection of Thyroid Cancer by an FDG-PET Cancer Screening Program: A Japanese Nation-wide Survey	ANTICANCER RESEARCH
30	Minamimoto, Ryogo	放射線核医学科	Performance profile of a FDG-PET cancer screening program for detecting gastric cancer: results from a nationwide Japanese survey	JAPANESE JOURNAL OF RADIOLOGY
31	Minamimoto, Ryogo	放射線核医学科	Detection of Lung Cancer by FDG-PET Cancer Screening Program: A Nationwide Japanese Survey	ANTICANCER RESEARCH
32	Minamimoto, Ryogo	放射線核医学科	A pilot study of 4-[methyl-C-11]-thiothymidine PE1/C1 for detection of regional lymph node metastasis in non-small cell lung cancer	EJNMMI RESEARCH

33	Mizushima, Daisuke	ACC	Diagnostic Utility of Quantitative Plasma Cytomegalovirus DNA PCR for Cytomegalovirus End-Organ Diseases in Patients With HIV-1 Infection	JAIDS-JOURNAL OF ACQUIRED IMMUNE DEFICIENCY SYNDROMES
34	Mizushima, Daisuke	ACC	Low body weight and tenofovir use are risk factors for renal dysfunction in Vietnamese HIV-infected patients. A prospective 18-month observation study	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY
35	Morooka, Mivako	放射線核医学科	Long fasting is effective in inhibiting physiological myocardial F-18-FDG uptake and for evaluating active lesions of cardiac sarcoidosis	EJNMMI RESEARCH
36	Nagata, Masayoshi	泌尿器科	Management of Early Prostate Cancer	NEW ENGLAND JOURNAL OF MEDICINE
37	Nagata, Naovoshi	消化器内科	Enhanced expression of activation-induced cytidine deaminase in human gastric mucosa infected by Helicobacter pylori and its decrease following eradication	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY
38	Nagata, Naovoshi	消化器内科	Increase in colonic diverticulosis and diverticular hemorrhage in an aging society: lessons from a 9-year colonoscopic study of 28,192 patients in Japan	INTERNATIONAL JOURNAL OF COLORECTAL DISEASE
39	Nagata, Naovoshi	消化器内科	Lower GI bleeding risk of nonsteroidal anti-inflammatory drugs and antiplatelet drug use alone and the effect of combined therapy	GASTROINTESTINAL ENDOSCOPY
40	Nagata, Naovoshi	消化器内科	Natural history of outpatient-onset ischemic colitis compared with other lower gastrointestinal bleeding: a long-term cohort study	INTERNATIONAL JOURNAL OF COLORECTAL DISEASE
41	Nagata, Naovoshi	消化器内科	Colonic diverticular hemorrhage associated with the use of nonsteroidal anti-inflammatory drugs, low-dose aspirin, antiplatelet drugs, and dual therapy	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY AND HEPATOLOGY
42	Nagata, Naovoshi	消化器内科	Impact of discontinuing non-steroidal antiinflammatory drugs on long-term recurrence in colonic diverticular bleeding	WORLD JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY
43	Nagata, Naovoshi	消化器内科	Risk of peptic ulcer bleeding associated with Helicobacter pylori infection, nonsteroidal anti-inflammatory drugs, low-dose aspirin, and antihypertensive drugs: A case-control study	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY AND HEPATOLOGY
44	Nagata, Naovoshi	消化器内科	High-Dose Barium Impaction Therapy for the Recurrence of Colonic Diverticular Bleeding A Randomized Controlled Trial	ANNALS OF SURGERY
45	Nagata, Naovoshi	消化器内科	Visceral abdominal fat measured by computed tomography is associated with an increased risk of colorectal adenoma	INTERNATIONAL JOURNAL OF CANCER
46	Nagata, Naovoshi	消化器内科	Predictors for Cecal Insertion Time: The Impact of Abdominal Visceral Fat Measured by Computed Tomography	DISEASES OF THE COLON & RECTUM
47	Nakamura, Harumi	中央検査科	NUT midline carcinoma of the mediastinum showing two types of poorly differentiated tumor cells: A case report and a literature review	PATHOLOGY RESEARCH AND PRACTICE
48	Nakamura, Toshitaka	病院長	Effect of the cathepsin K inhibitor odanacatib administered once weekly on bone mineral density in Japanese patients with osteoporosis—a double-blind, randomized, dose-finding study	OSTEOPOROSIS INTERNATIONAL
49	Nakamura, Toshitaka	病院長	Clinical Trials Express: Fracture Risk Reduction With Denosumab in Japanese Postmenopausal Women and Men With Osteoporosis: Denosumab Fracture Intervention Randomized Placebo Controlled Trial	JOURNAL OF CLINICAL ENDOCRINOLOGY & METABOLISM
50	Nishijima, Takeshi	ACC	Traditional but Not HIV-Related Factors Are Associated with Nonalcoholic Fatty Liver Disease in Asian Patients with HIV-1 Infection	PLOS ONE
51	Nishijima, Takeshi	ACC	Skin rash induced by ritonavir-boosted darunavir is common, but generally tolerable in an observational setting	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY
52	Nishijima, Takeshi	ACC	Brain Magnetic Resonance Imaging Screening Is Not Useful for HIV-1-Infected Patients Without Neurological Symptoms	AIDS RESEARCH AND HUMAN RETROVIRUSES
53	Nishijima, Takeshi	ACC	Reply to 'How does weight influence tenofovir disoproxil-fumarate induced renal function decline?'	AIDS
54	Nishijima, Takeshi	ACC	Long-term exposure to tenofovir continuously decrease renal function in HIV-1-infected patients with low body weight: results from 10 years of follow-up	AIDS
55	Nishijima, Takeshi	ACC	Cumulative exposure to ritonavir-boosted atazanavir is associated with cholelithiasis in patients with HIV-1 infection	JOURNAL OF ANTIMICROBIAL CHEMOTHERAPY
56	Nishijima, Takeshi	ACC	Incidence and Risk Factors for Incident Hepatitis C Infection Among Men Who Have Sex With Men With HIV-1 Infection in a Large Urban HIV Clinic in Tokyo	JAIDS-JOURNAL OF ACQUIRED IMMUNE DEFICIENCY SYNDROMES
57	Nishijima, Takeshi	ACC	Single-nucleotide polymorphisms in the UDP-glucuronosyltransferase 1A-3* untranslated region are associated with atazanavir-induced nephrolithiasis in patients with HIV-1 infection: a pharmacogenetic	JOURNAL OF ANTIMICROBIAL CHEMOTHERAPY
58	Noguchi, Tomoyuki	放射線管理室	A Technical Perspective for Understanding Quantitative Arterial Spin-labeling MR Imaging using Q2TIPS	MAGNETIC RESONANCE IN MEDICAL SCIENCES
59	Nozaki, Yuichi	消化器内科	Drug-Drug Interactions in Patients Co-infected With HCV and HIV	JAMA-JOURNAL OF THE AMERICAN MEDICAL ASSOCIATION
60	Sato, Tatsuya	総合診療科	DIAGNOSIS OF LATE-ONSET TAKAYASU ARTERITIS FOR ELDERLY ADULTS USING FLUORINE-18 FLUORODEOXYGLUCOSE POSITRON EMISSION	JOURNAL OF THE AMERICAN GERIATRICS SOCIETY
61	Takeshita, Nozomi	国際感染症センター	Immunogenicity of single-dose Vero cell-derived Japanese encephalitis vaccine in Japanese adults	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY
62	Tanuma, Junko	ACC	Low Prevalence of Transmitted Drug Resistance of HIV-1 During 2008–2012 Antiretroviral Therapy Scaling up in Southern Vietnam	JAIDS-JOURNAL OF ACQUIRED IMMUNE DEFICIENCY SYNDROMES
63	Tsujimoto, Tetsuro	糖尿病内分泌代謝科	Effects of intensive glycaemic control on ischaemic heart disease	LANCET
64	Tsujimoto, Tetsuro	糖尿病内分泌代謝科	Effectiveness of Combination Therapy With Statin and Another Lipid-Modifying Agent Compared With Intensified Statin Monotherapy	ANNALS OF INTERNAL MEDICINE
65	Tsujimoto, Tetsuro	糖尿病内分泌代謝科	Acarbose vs metformin for new-onset type 2 diabetes	LANCET DIABETES & ENDOCRINOLOGY
66	Tsujimoto, Tetsuro	糖尿病内分泌代謝科	Combination Pill for Cardiovascular Disease	JAMA-JOURNAL OF THE AMERICAN MEDICAL ASSOCIATION
67	Tsujimoto, Tetsuro	糖尿病内分泌代謝科	Vital Signs, QT Prolongation, and Newly Diagnosed Cardiovascular Disease During Severe Hypoglycemia in Type 1 and Type 2 Diabetic Patients	DIABETES CARE
68	Tsujimoto, Tetsuro	糖尿病内分泌代謝科	Seasonal Variations of Severe Hypoglycemia in Patients With Type 1 Diabetes Mellitus, Type 2 Diabetes Mellitus, and Non-diabetes Mellitus	MEDICINE
69	Watanabe, Koji	ACC	Clinical Significance of High Anti-Entamoeba histolytica Antibody Titer in Asymptomatic HIV-1-infected Individuals	JOURNAL OF INFECTIOUS DISEASES
70	Watanabe, Koji	ACC	Short Report: Asymptomatic Intestinal Amebiasis in Japanese HIV-1-Infected Individuals	AMERICAN JOURNAL OF TROPICAL MEDICINE AND HYGIENE

71	Yamamoto, Kei	国際感染症センター	Long-Term Functional Prognosis of Patients with HIV-Associated Progressive Multifocal Leukoencephalopathy in the Era of Combination ART	AIDS PATIENT CARE AND STDS
72	Yamashita, Hirovuki	膠原病科	Chronic active Epstein-Barr virus infection mimicking autoimmune hepatitis exacerbation in a patient with systemic lupus erythematosus	LUPUS
73	Yamashita, Hirovuki	膠原病科	Clinical value of whole-body PET/CT in patients with active rheumatic diseases	ARTHRITIS RESEARCH & THERAPY
74	Yamashita, Hirovuki	膠原病科	Clinical value of F-18-fluoro-deoxyglucose positron emission tomography/computed tomography in patients with adult-onset Still's disease: A seven-case series and review of the literature	MODERN RHEUMATOLOGY
75	Yamashita, Hirovuki	膠原病科	A case of Sjogren's syndrome complicated by protein-losing gastroenteropathy with unprecedented pulmonary interstitial lesions	MODERN RHEUMATOLOGY
76	Yamashita, Hirovuki	膠原病科	Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibody (ANCA)-associated Vasculitis Associated with Primary Biliary Cirrhosis: A Case Report and Literature Review	INTERNAL MEDICINE
77	Yamashita, Hirovuki	膠原病科	Utility of fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography for early diagnosis and evaluation of disease activity of relapsing polychondritis: a case series and literature review	RHEUMATOLOGY
78	Yamashita, Hirovuki	膠原病科	A Patient with Diffuse Cutaneous Systemic Sclerosis Complicated by Antineutrophil-cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis Exhibiting Honeycomb Lung without Volume Loss	INTERNAL MEDICINE
79	Yamashita, Hirovuki	膠原病科	Characteristics of 10 patients with paraneoplastic rheumatologic musculoskeletal manifestations	MODERN RHEUMATOLOGY
80	Yotsu, Rie	皮膚科	Case series of patients with chronic foot ulcers treated with autologous platelet-rich plasma	JOURNAL OF DERMATOLOGY
81	Yotsu, Rie	皮膚科	Comparison of characteristics and healing course of diabetic foot ulcers by etiological classification: Neuropathic, ischemic, and neuro-ischemic type	JOURNAL OF DIABETES AND ITS COMPLICATIONS

計81

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、理事長の業務、倫理委員会、研究責任者等の業務、記録の保存等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 趣旨、用語の定義、利益相反マネジメントの対象、職員等の責務、各部局における対応、利益相反マネジメント委員会、所掌事項、調査結果に基づく処置、異議申し立て、組織、委員長、委員会の開催、議事、意見の聴取、利益相反相談室の設置、センター外への周知、専門委員会、委員等の義務、事務、雑則等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 26 回
・ 研修の主な内容 ・ 臨床研究の適切な実施のために参考となる事例の紹介 ・ 産学連携からのCOIの基本的事項 ・ JPMAによる「製薬企業による臨床研究支援の在り方に関する基本的考え方」 ・ 医学・臨床研究における利益相反マネジメントの必要性 ・ 臨床薬理学・治験学と臨床試験 ・ 臨床研究倫理指針の概要の解説 ・ 臨床研究の実施において求められる各種報告	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院の高度の医療に関する研修(専門研修)では、救命救急センターの救急科や総合診療科における豊富な臨床症例、稀少症例を含む各専門診療科の入院症例を教育資源として、熱心な専門研修指導医を中核とする充実した指導体制の下、各専門分野の臨床能力を高め、基本領域を中心とする専門医資格を確実に取得可能とする。さらに、臨床研究センターにおける臨床疫学・医学統計セミナー、日本の国際保健医療のメッカである国際医療協力局、高水準の感染症臨床を誇る国際感染症センター、研究所における基礎研究等、特徴ある教育資源を生かし、当院ならでの専門研修プログラムを提供している。さらに近隣大学医学部の臨床系大学院と連携し、学位取得を可能としている。

2 研修の実績

研修医の人数	160人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
柳瀬 幹雄	消化器内科	消化器内科診療科長	22年	
廣井 透雄	循環器内科	循環器内科診療科長	24年	
杉山 温人	呼吸器内科	呼吸器内科診療科長	32年	
梶尾 裕	糖尿病内分泌代謝科	糖尿病内分泌代謝科診療科長	28年	
日ノ下 文彦	腎臓内科	腎臓内科診療科長	32年	
三森 明夫	膠原病科	膠原病科診療科長	32年	
萩原 将太郎	血液内科	血液内科診療科長	23年	
竹内 壯介	神経内科	神経内科診療科長	21年	
松下 竹次	小児科	小児科診療科長	38年	
玉木 毅	皮膚科	皮膚科診療科長	26年	
今井 公文	精神科	精神科診療科長	22年	
田嶋 強	放射線科	放射線診断科診療科長	23年	
川瀬 貴嗣	放射線科	放射線治療科診療科長	17年	

窪田 和雄	放射線科	放射線核医学科診療科長	36年	
木村 昭夫	救急科	救命救急センター長	29年	
國松 淳和	総合診療科	医師	10年	
藤谷 順子	リハビリテーション科	リハビリテーション科診療科長	26年	
猪狩 亨	病理診断科	病理診断科診療科長	25年	
矢野 秀朗	外科	外科診療科長	23年	
保坂 茂	心臓血管外科	心臓血管診療科長	30年	
喜納 五月	呼吸器外科	呼吸器外科診療科長	20年	
原 徹男	脳神経外科	脳神経外科診療科長	30年	
桂川 陽三	整形外科	整形外科診療科長	26年	
箕和田 滋	泌尿器科	泌尿器科診療科長	37年	
片井 直達	眼科	眼科診療科長	25年	
矢野 哲	産婦人科	産婦人科診療科長	33年	
前原 康宏	麻酔科	麻酔科診療科長	29年	
田山 二郎	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科診療科長	30年	
松林 薫美	形成外科	形成外科診療科長	31年	
			年	
			年	

- (注)1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注)2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注)3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	院長 中村 利孝
管理担当者氏名	須貝 和則、堀之内 勝志、六ツ見 しのぶ、杵木 優子、深谷 隆史、和泉 啓司郎

	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	総務課 医事室 電子カルテ	年度ごとに文書保存 診療録 電子媒体	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	文書保存 電子媒体
	高度の医療の提供の実績	財務経理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療教育室	
	高度の医療の研修の実績	医療教育室	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	文書保存
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	院内感染管理室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染管理室
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染管理室
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染管理室
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室	

文書保存

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	堀之内 勝志		
閲覧担当者氏名	三山 剛史		
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
独立行政法人国立国際医療研究センター情報公開手続規程第 5 条（開示請求の手続）第 1 項に基づき、様式 1 法人文書開示請求書をセンターに提出することにより、開示（閲覧）請求を行う。			

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 趣旨2. 医療に係る安全管理のための基本的考え方3. 医療に係る安全管理のための組織及び委員会等に係る基本的事項4. 医療に係る安全管理のための職員研修等に関する基本的事項5. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針6. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針7. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本事項8. 患者からの相談への対応に関する基本事項9. その他医療安全の推進のために必要な基本事項	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 62回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. リスクマネジメント委員会（月1回）…12回 医療事故防止対策、発生した医療事故について速やかに適切な対応を図るための審議 医療安全に関する各委員会報告2. リスクマネージメント部会（8月まで、月1回）…5回 実際の報告事例の原因分析並びに事故予防策の検討等3. リスク分析小委員会（9月より、月2回）…14回 実際の報告事例を予防の観点から原因や状況の分析、改善策を検討する4. 医薬品安全管理小委員会（月1回）…12回 医薬品の安全使用に必要な事項を審議5. 医療機器安全管理小委員会（月1回）…12回 医療機器の安全使用に必要な事項を審議6. リスクマネージャー会議（9月より、月1回）…7回 医療安全の推進及び医療事故防止に関する情報交換を行う	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p><前期> テーマ：本当に大丈夫！あなたの患者確認 方 法：研修ビデオ視聴</p> <p><後期> テーマ：医薬品・医療機器の事故事例とその対策 方 法：講演会</p> <p><緊急> テーマ：二度と起こしてはならない造影剤に関する重大な医療事故 内 容：造影剤による医療事故と当院の対策 ハイアラート薬の知識と使用における改善点 ヒヤリハット報告の意義と重要性 多職種参加によるチーム医療の重要性 方 法：講義</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 各診療科、病棟、中央施設部門にリスクマネージャーとジュニアリスクマネージャーを配置し、医療安全管理に関する情報発信、医療安全パトロール等活動を行うことを開始した2. ヒヤリハットニュース、リスクマネージャー会議で他施設の医療安全に関する情報等を密に発信、当院の活動との関連性も発信している。	

3・薬剤疑義照会の情報を基に、医師ヘインシデントレポートの入力を促している。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	④ (1名) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④ (2名) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	④ ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (7) 名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知 2. 現場の情報収集及び実態調査 3. マニュアルの作成及び点検 4. ヒヤリハット体験報告の収集・分析・分析結果を現場へのフィードバック・集計結果の管理・改善策の提案とその評価等 5. 医療安全に関する職員への教育研修、啓発及び広報 6. 委員会、会議などで用いられる資料の作成及び保存、議事録等庶務 7. 事故発生時の患者及び家族への対応に関する指導や説明時に同席 8. 医療事故調査委員会に関する庶務 9. 国際医療協力局企画の研修講師 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④ ・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 国立国際医療研究センターにおける院内感染防止の目的2. 感染対策の基本的考え方3. 感染対策防止対策委員会及び院内感染対策に係る組織に関する基本事項4. 感染対策のために職員に対して行われる研修に関する基本方針5. 感染症発生状況の報告に関する基本方針6. 感染症発生時の対応に関する基本事項7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する方針8. 感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	1年 12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 微生物室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析2. 薬剤部からの抗菌薬使用状況報告による耐性菌検出状況の分析3. ICTから血液培養、耐性菌院内発生状況、感染対策遵守状況の報告により、院内動向の分析4. ICTで検討した課題、提案事項などを審議、決定する5. マニュアル、規約等の最終決議	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	1年 3回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 標準予防策、手指衛生 DVD鑑賞とレポート提出 (必須研修)2. 結核 DVD鑑賞とレポート提出 (必須研修)3. カルバペネム耐性腸内細菌(CRE)のアウトブレイクどう対応するか	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 週1回のICTラウンドによる感染対策の実施状況の確認、環境のチェック、指導、フォローアップ2. 細菌検査室と協力し耐性菌等の発生状況を毎日確認、検出時は病棟へ連絡し対策を指導する4. 診療科別、病棟別の耐性菌検出状況を1回/月集計、提示し、必要時介入を行う5. 抗菌薬使用届出制度および許可制度を運用し、状況の確認、必要時介入を行う6. 抗菌薬適正使用推進のための感染症科コンサルテーション、血液培養陽性患者のラウンドと 広域抗菌薬長期使用患者への介入7. 職員の手指衛生遵守状況サーベイランスの実施 (感染リンクナース、感染リンクドクター)8. マニュアルの見直し・改訂	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年11回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 「薬剤業務 処方についての注意点」 ： 新入オリエンテーション（研修医）・ 「医療安全 薬剤の取扱い」 ： 新採用者オリエンテーション（看護部）・ 「安全な静脈注射実施に関する研修」 ： 看護師対象・ 「麻薬の取扱いについて」 ： 関係職員・ 「ハイアラート薬について」 ： 中途採用者研修 など	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 （○有・無）・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 「医薬品に関する医療安全研修」の実施・ 「医薬品の安全使用のための業務手順書」一部改訂（平成27年7月9日） 病棟薬剤業務実施に関する追加 患者確認に関する事項の変更・ 「ハイリスク薬・ハイアラート薬」の選定および周知・ 「薬剤部業務チェックリスト」による実施確認・ 「病棟等巡視状況報告書」による定数薬等の確認 など	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （○有・無）・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) PMDAからの医薬品・医療機器情報サービスから、添付文書改訂情報（承認情報、使用上の注意の改訂情報等）を入手・配信している2) 「緊急安全性情報」「安全性情報」などの緊急かつ重篤な情報については薬剤部ホームページや院内メールで情報提供し、関係診療科、処方医には病棟薬剤師からも直接情報提供する3) 使用方法が限定される医薬品では、関係部署と協議を行い院内全体に周知している（例：サビーン注の取扱いについて）	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	1年 2回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：・ 人工呼吸器、徐細動器、保育器、人工心肺装置、補助循環装置、血液浄化装置の機種ごとにおける、安全のための取扱研修・ 電源及び配管の基本知識、装置の取扱い方法、準備物品、日常点検方法など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 保守点検の主な内容：・ 人工呼吸器、徐細動器、保育器、人工心肺装置、補助循環装置、血液浄化装置の点検計画の策定および実施・・ 1年ごと定期点検計画の策定し医療機器安全管理責任者への報告、了承・ 2か月ごとに定期点検実施状況を医療機器安全管理責任者へ報告する	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ その他の改善のための方策の主な内容：・ JCQHCおよびPMDAホームページからの情報またPMDAのメディナビの活用・ 医療機器安全管理小委員会および医療安全管理室への情報提供・ センター管理会議およびリスクマネージャー会議での職員全体への周知・ 当院でのME機器による事故事例がある場合にリスク分析小委員会で改善策を検討	

(様式第 8)

国際研セン発 271002004 号
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 春日 雅人 (印)

国立国際医療研究センター病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 2 標榜する診療科 3 専門の医師の配置 4 論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由
<p>－実績－ 英語による発表論文数 65 件 －予定措置－ 以下の取組等により、5年以内に、基準（年間70件）以上の英語論文発表を目指す。</p> <p>（1）病院と研究所等、センター内の連携強化 病院の医師と研究所の研究者等の緊密な相互連携をさらに促進し、病院における研究・開発がより一層推進されるよう、研究所－病院連絡会議を平成26年3月に新たに設置し、毎月1回開催することとしたところ。これにより、病院における新規研究プロジェクト発足を促す。</p> <p>（2）大学との連携 平成26年度入学分からは順天堂大学と、平成27年度入学分からは慶應義塾大学医学部と連携大学院協定を結び、国立国際医療研究センターに所属しながら研究を実施し学位取得が可能となる制度を整備。</p> <p>（3）病院における若手研究者の育成 運営費交付金を若手研究者にも配分する特別枠を設定するとともに、若手研究者育成に資する論文作成支援等の取組を平成26年度から実施。</p>	<p>今年度実績は81件で、承認要件を満たしている。</p>

<p>(4) 臨床研究センターによる、臨床研究に関わる人材育成プログラムの強化 これまでも臨床研究センターでは人材育成プログラムを実施してきたが、若手臨床研究者養成のプログラムを平成27年度以降に新規に開設するなどしてプログラムを強化。</p> <p>(5) 診療科別の英語論文発表数の公表 診療科別の英語論文発表数をHP等で公表することにより、競争の原理を働かせる。</p>	
--	--

- (注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第8として報告した事項を記載すること。
2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

3 今後の具体的措置

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。